

今週の見頃写真

8月19日編集

お盆を過ぎると有峰も、朝晩、少しずつ冷涼さが増しつつあります。猪根山からは日中、ミンミンゼミ（セミ科）やツクツクボウシ（セミ科）の鳴き声が反響しています。一方、夜、猪根平では、「ルルルルルー」というカンタン（コウロギ科）の哀愁を帯びた鳴き声（音色）が聞こえ始めました。カンタンの食性は肉食性が強い雑食性で、アブラムシを好んで食べるほか、ヨモギやクズなどの葉も食べているようです。

○動物編

○ツキノワグマ

有峰でも30℃を超える真夏日となった8月11日（火）の午後1時、ツキノワグマの小熊が有峰森林文化公園区域内のバーベキュー広場から、アリを探索・物色・捕食しながらゆっくりとせせらぎ広場にやってきました。せせらぎ広場にある水深20cm程の流水池に来るや直ぐに水浴し始めました。新型コロナウイルス感染症対策の一環として定着したソーシャルディスタンス（社会的距離）ではありませんが、人身被害を受けないを第一に考慮し、一定の距離を置きながら、細心の注意を払い、ツキノワグマの観察・撮影を行いました。池に入ると直ぐに目を細めました。「いい湯だな～ハハハ♪」を唄っているようでした。鼻を鳴らしブクブクも始めました。時折頭を上げ、辺りの様子を伺っていました。池への入水から池から這い上がってくるまでの時間は10分が経過していました。暑い日にはツキノワグマも水浴することが観察できました。



せせらぎ広場の流水池に入ろうとするツキノワグマ

の小熊（せせらぎ広場にて8/11撮影）



流水池に入ったツキノワグマの小熊（せせらぎ広場にて8/11撮影）



流水池に入り目を細めるツキノワグマ小熊
（せせらぎ広場にて8/11撮影）



ブクブクしているツキノワグマの小熊
（せせらぎ広場にて8/11撮影）



流水池に浸かって静止中のツキノワグマの小熊
(せせらぎ広場にて8/11撮影)



車の音に聞き耳を立てるツキノワグマの小熊
(せせらぎ広場にて8/11撮影)



辺りの様子を伺うツキノワグマの小熊
(せせらぎ広場にて8/11撮影)



池から立ち上がったツキノワグマの小熊
(せせらぎ広場にて8/11撮影)



水中から目だけをこちらに向けて静止中のツキノワグマの小熊 (せせらぎ広場にて8/11撮影)



歩き始めたツキノワグマの小熊
(せせらぎ広場にて8/11撮影)



池から這い上がってくるツキノワグマの小熊
(せせらぎ広場にて8/11撮影)



池から這い上がってきたツキノワグマの小熊
(せせらぎ広場にて8/11撮影)

○鳥類

○カケス (カラス科)

カケスは、ごま塩頭の、ものまねのうまい鳥として知られています。最近10羽程度の群れで行動し、草刈りをした猪根平多目的広場などで、バッタなどの昆虫類を捕食している姿をよく見かけるようになりました。人気のない早朝や夕方に集中して行動しているようです。秋には、ミズナラなどのドングリの実を好んで食べているようです。



バッタなどを捕食しようと木から地面に舞い降りたカケス (多目的広場にて8/12撮影)

○昆虫編

○フクラスズメ (ヤガ科)

ビジターセンター裏のアカソ (イラクサ科) にフクラスズメ (ヤガ科) の幼虫が葉を捕食していたので撮影しました。幼虫は、若齢から終齢と様々なステージの幼虫が同居していました。終齢幼虫の体に触れると、体幹 (前半身) を震わせ、イヤイヤの威嚇行動をとりました。特に、終齢幼虫は目立つカラフルな配色をした大型のイモムシです。観察してみると色々な行動や生態が垣間見えます。

越冬態：成虫



威嚇行動を取るフクラスズメの終齢幼虫
(ビジターセンター裏にて8/17撮影)



アカソの葉裏で静止中のフクラスズメの終齢幼虫
(ビジターセンター裏にて8/17撮影)



ミズナラの葉上で静止中のニホントビナナフシ
猪根平樹木園にて8/17撮影



体幹を震わせ威嚇中のフクラスズメの終齢幼虫
(ビジターセンター裏にて8/17撮影)



アカソの葉裏で脱皮中のフクラスズメの若齢幼虫
(ビジターセンター裏にて8/17撮影)

○ニホントビナナフシ (ナナフシ科)

有峰猪根平樹木園のミズナラの葉上で静止中のニホントビナナフシを発見したので撮影しました。短い羽のあるナナフシの仲間です。有峰では、ミズナラなどの葉を捕食しているようです。